

## この建物について

旧久米家住宅洋館は、久米民之助が明治末期から大正初期頃に、現在の東京都渋谷区に構えた邸宅の洋館部分です。

当初は広大な敷地内に和館の母屋、客座敷などとともに建てられ、応接間として使われていました。邸宅は、大正11年(1922)に紀州徳川家へ譲渡され、迎賓館として使用された後、様々な経過をたどり、この洋館のみが現地に伝わりました。

令和2年(2020)に取り壊しの計画が浮上し、現地での保存が困難となったため、久米民之助が生まれ育った沼田市への移築が決定し、令和5年(2023)に完成しました。

## 沼田市 名誉市民 久米 民之助 (1861~1931)

沼田藩士・久米権十郎の長男として沼田に生まれました。

明治9年(1876)、慶應義塾(現・慶應義塾大学)に入学、その後、工部大学校(現・東京大学工学部)に編入し、土木学を修めます。

卒業後は皇居の造営に携わり、二重橋の設計を担当しました。また、実業家としても活躍し、鉄道工事等、多くの事業を手掛けました。衆議院議員も4期務めています。

晩年には故郷のため、荒廃していた沼田城の跡地を私財を投じて公園に整備し、大正15年(1926)、当時の沼田町へ寄附しました。その公園は現在、「沼田公園」として多くの人々に親しまれています。



かつての洋館内部。写真中央が久米民之助。(東京都立中央図書館蔵)

## 利用案内

開館時間 午前9時30分から午後5時まで(最終入館は午後4時30分)

休館日 水曜日(祝日の場合は翌日)、祝日の翌日、年末年始

観覧料 無料

## アクセス

所在地 群馬県沼田市上之町 1161-3

電話番号 0278-22-3110(生方記念文庫)

公共交通 JR沼田駅から関越交通バス約6分「上之町」下車

自家用車 関越自動車道沼田ICから約10分



## 周辺案内

旧久米家住宅洋館は、歴史的建造物を集めた「大正ロマンエリア」の一角にあります。エリア内には、旧沼田貯蓄銀行(群馬県指定重要文化財)、旧土岐家住宅洋館(国登録有形文化財)、旧日本基督教団沼田教会記念会堂(国登録有形文化財)のほか、歌人・生方たつ彥(1904-2000)の文学館である生方記念文庫が建ち並んでいます。



また、近くには沼田市歴史資料館、旧生方家住宅(国指定重要文化財)がありますので、一緒にお立ち寄りください。

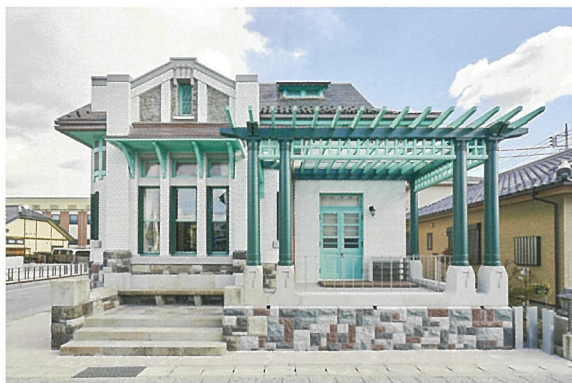
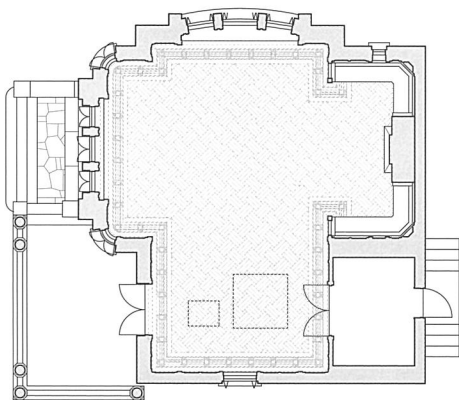
# 旧久米家住宅洋館



## 沼田市教育委員会

## 概要

建築年代 明治時代末期～大正時代初期  
構造 鉄筋コンクリート造平屋建、天然スレート葺  
面積 80.02 m<sup>2</sup>  
移 築 令和5年（2023）11月30日



## 建物の特徴

建物の意匠には、西欧で19世紀末に興った新芸術運動のひとつで、幾何学的な装飾が特徴のセセッション様式が取り入れられています。外観の飾り金物や装飾、暖炉の石張りなどにその特徴を見ることができます。

構造は鉄筋コンクリート造りで、コンクリートを使用した住宅建築としては、我が国の最初期例に当たると考えられます。

一方で、屋根の小屋組みには木材を使用しています。



床と天上に設けた窓から、当時の建築部材を見ることができます。

## 復原移築

旧久米家住宅洋館は、時代や生活様式の変化に合わせて、間取りや建材の変更・更新が行われていました。

移築に当たり、建物を建築当初の姿に戻す「復原」を行いました。小屋組みや窓、雨戸、石材など建築当初からそのままの部材は可能な限り再使用しています。また、床材や壁紙、外壁、タイル、暖炉や照明など、解体調査や部材調査、古写真から当初の形や色が判明したものは、再現をしました。



◀ 移築前の旧久米家住宅洋館。解体調査で、建築当初に使用されていた外壁の白いタイルや、内装の壁紙が発見されたため、復原を行いました。

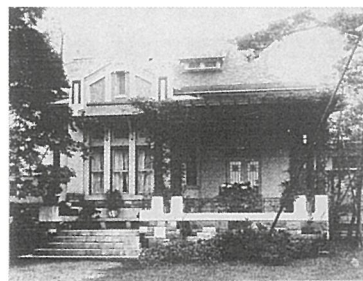


▲ 白いタイルが発見された様子。



◀ 壁紙は、解体調査で建築当初の「金唐革紙」が発見され、同じ文様の版木が「紙の博物館」（東京都）に保管されていたことから、復原することができました。復原製作した金唐革紙は、暖炉周りに使用しています。

## 建築当初の姿



▲▶ 雑誌「建築世界」に「久米民之助氏邸洋館」として掲載された写真。



◀ 庭園から撮影した写真。左に洋館が写っており、中央に写る建物（客座敷）と渡り廊下で接続されていたことが分かります。奥には、久米家の生活スペースである住居棟がありました。（写真：徳川氏提供）